



第47回 SGRAフォーラムのご案内

科学技術とリスク社会

現代の巨大科学技術、先端科学技術は、人類に大きな恩恵をもたらす一方で、人間社会にさまざまなリスクをもたらします。

今回のSGRAフォーラムでは、福島第一原発事故を事例として、宗教学、応用倫理学、科学技術社会論などの観点から「科学技術とリスク社会」における「科学技術と倫理」、「科学なしでは答えられないが、科学だけでは答えられない問題群」について、会場参加者とゲストが一体となった、オープンディスカッションを行います。

テーマ：「科学技術とリスク社会」

～福島第一原発事故から考える科学技術と倫理～

対 談：島 蘭 進 上智大学神学部教授（宗教学/応用倫理学）

平川秀幸 大阪大学コミュニケーションデザインセンター教授（科学技術社会論）

ディスカッショントピック：

- ◆福島第一原発事故から考える「科学技術の限界」、「専門家への信頼の危機」
- ◆巨大科学、先端科学が生み出す「リスク社会」の様相
- ◆「科学技術と倫理」の課題－理工系科学者、社会/人文系科学者の役割と倫理
- ◆科学者と「市民」を結ぶ科学技術コミュニケーションの可能性

☆フォーラムの問題提起、ファシリテーションは若手外国人研究者が日本語で行います。

主 催： SGRA（渥美国際交流財団/関口グローバル研究会）

日 時： 2014年5月31日（土）午後1時30分～4時30分

会 場： 東京国際フォーラム ガラス棟 G610会議室

<https://www.t-i-forum.co.jp/general/access/>

参加費：フォーラム/無料 懇親会/正会員1000円、メール会員・一般2000円

お問い合わせ・参加申込み：SGRA事務局宛に事前にお名前、ご所属、連絡先をご記入の上、参加申込みをしてください。

SGRA事務局（sgra-office@aisf.or.jp Tel: 03-3943-7612 Fax:03-3943-1512）

.....
参加ご希望の方は、5月29日（木）までに下記にご記入の上、Faxでお申込みください。

Fax宛先：SGRA/渥美財団 03-3943-1512

お名前

ご所属

Tel：

e-mail：

◇フォーラム後の懇親会参加（○で囲んでください）

参加

・ 不参加

SGRA（渥美国際交流財団関口グローバル研究会）は日本に留学し博士号を取得した若手外国人研究者を中心に、幅広い研究領域を対象とした学際的/国際的活動のプラットフォームです。（<http://www.aisf.or.jp/sgra/>）

《プログラム》

1:30～1:40	司会:葉 文昌(島根大学総合理工学部電子制御システム工学科准教授 /電子物理工学) 挨拶:今西淳子(SGRA代表/渥美国際交流財団常務理事)
1:40～1:50	問題提起: 崔 勝媛(韓国) 理化学研究所研究員/植物学 私は、科学者という道を選んで以来、常に「今の社会での科学とは何か」を考え続けてまいりました。「事業仕分け」や3・11東日本大震災/福島第一原発事故を目の当たりにして、「社会に貢献する科学」への疑問が深まってきました。現在、日本の研究所で一研究員として研究を続けてゆく中、「これからの社会にとっての科学とは何か」という命題を考え続けています。
1:50～2:30	対談:「科学技術とリスク社会」 対談者:島 蘭 進 上智大学神学部教授 平川秀幸 大阪大学コミュニケーションデザインセンター教授 モデレータ:エリック・シュッケタンツ(ドイツ) 東京大学大学院人文社会系研究科特別研究員/宗教史
2:30～2:45	(休憩)
2:45～4:25	オープンディスカッション ファシリテータ:デール・ソンヤ(ノルウェー) 上智大学大学院グローバルスタディーズ研究科特別研究員 /グローバル社会 ➤ 島蘭先生、平川先生と共に会場参加者と一体になったディスカッション
4:25～4:30	閉会の辞:嶋津忠廣(SGRA運営委員長/渥美国際交流財団事務局長)

島 蘭 進 Susumu SHIMAZONO

上智大学神学部教授 (宗教学、応用倫理学) 東京大学大学院人文社会系研究科名誉教授

【プロフィール】

近代日本宗教史、比較宗教運動論を研究し、とくに日本の19世紀から現在までの、新宗教の研究、特に、宗教文化が現代の政治的、社会的、倫理的争点とどう関わるかという課題を研究。

近年では、死生学の研究、応用倫理の側面から生命科学と倫理の問題、福島第一原発事故を契機として「科学技術と倫理」の問題などに多数の発言を行っている。

【主な著作】

『現代宗教とスピリチュアリティ』弘文堂〈現代社会学ライブラリー〉2012年

『つくられた放射線「安全」論-科学が道を踏みはずすとき-』〈河出書房新社〉2013年

その他多数

平川 秀幸 Hideyuki HIRAKAWA

大阪大学コミュニケーションデザインセンター教授 (科学技術社会論)

【プロフィール】

「リスクをめぐる政策、さらに、リスクを生み出してしまう技術や科学をどのようにして人間社会がハンドリングをつけて動かしてゆくのか、方向づけていけるのかということ、また、政策決定や政策が科学に対してどういう影響を与えるのかということに関心を持っています。」(大阪大学HPから抜粋)

【主な著作】

「原子力事故の『途方もなさ』をいかに理解するかーハンナ・アーレントの近代批判を導きとして」, 中村征樹(編)『ポスト3・11の科学と政治』ナカニシヤ出版[2013年01月]

「科学は誰のものかー社会の側から問い直す」平川秀幸, 日本放送出版協会[2010年09月]

その他多数